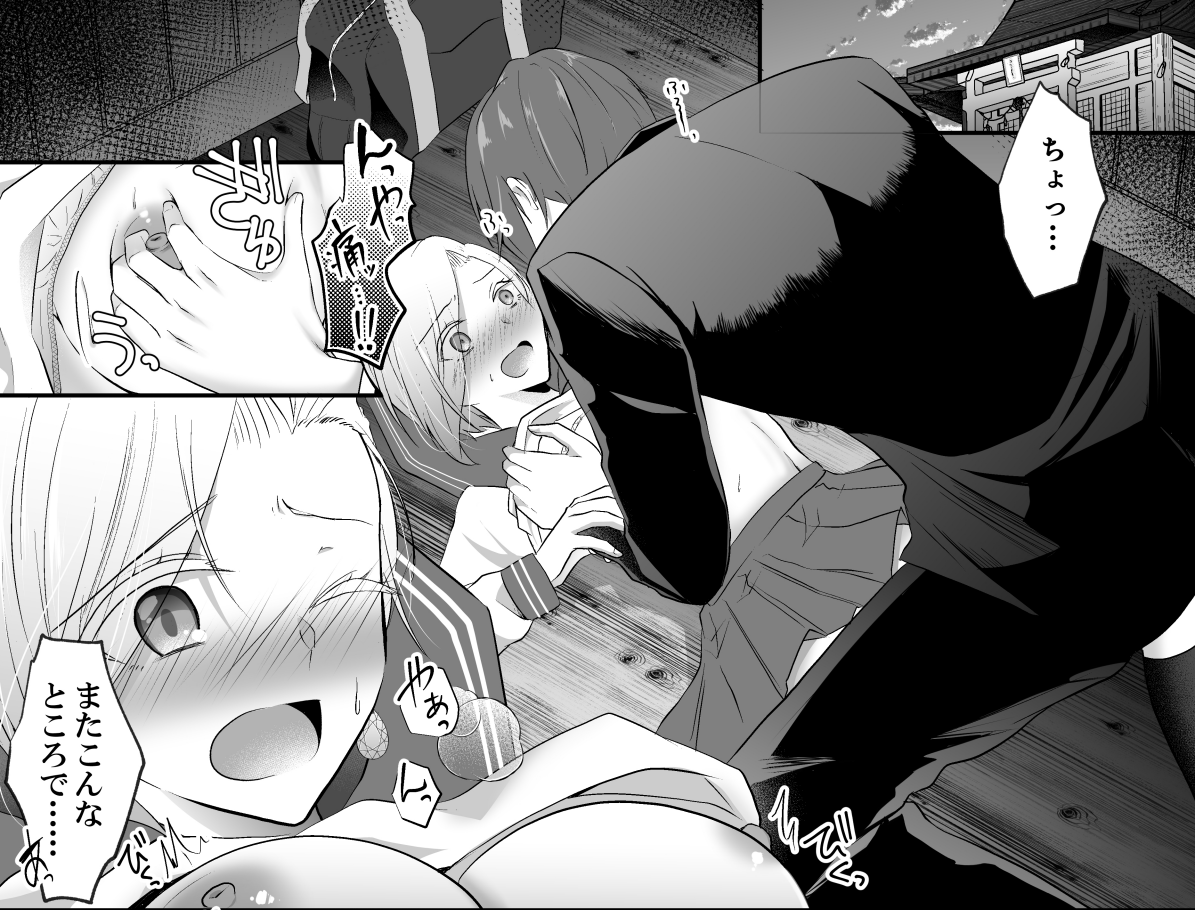


渴愛

生贖花嫁が孤独な山神に
抱かれ、焦らされ、墮ちるまで



ちよっ...

うっ
やあッ
痛ッ!!

またこんなところであっ

やあッ

室内だからって誰かに見られたらどうすっ...

んまッ!!

はっ...
だい、ちよっ、あッ...

ちよっ



いっしょに……

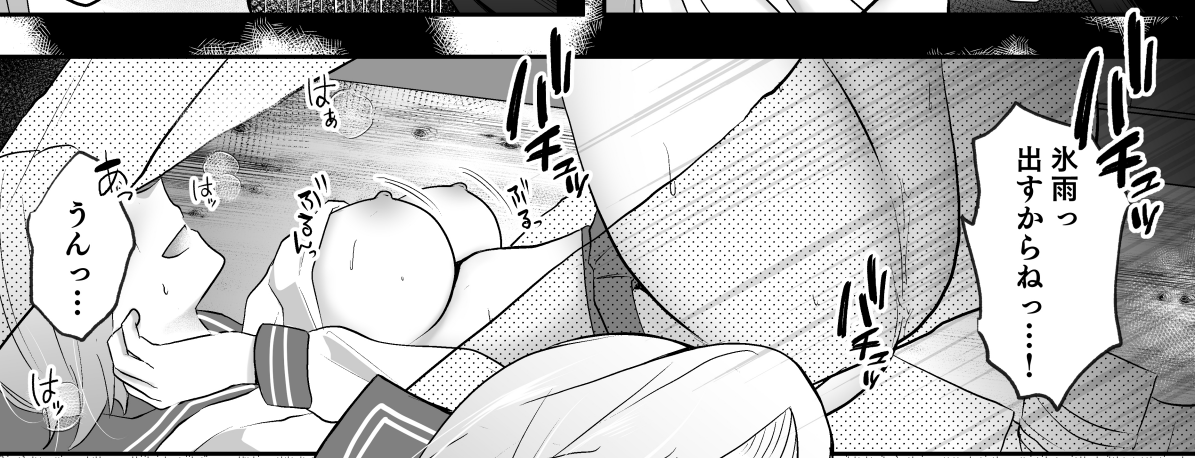
あしあし

え……



氷雨のナカ
気持ちいい……!

んっ
んっ



氷雨っ
出すからねっ……!

ハキキッ

ハキキッ

ハキキッ

はっ

はっ

あ
うんっ……

はっ



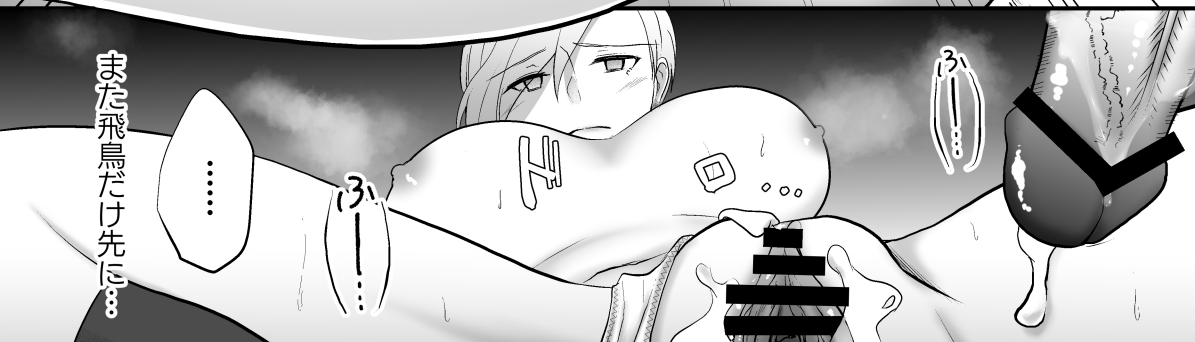
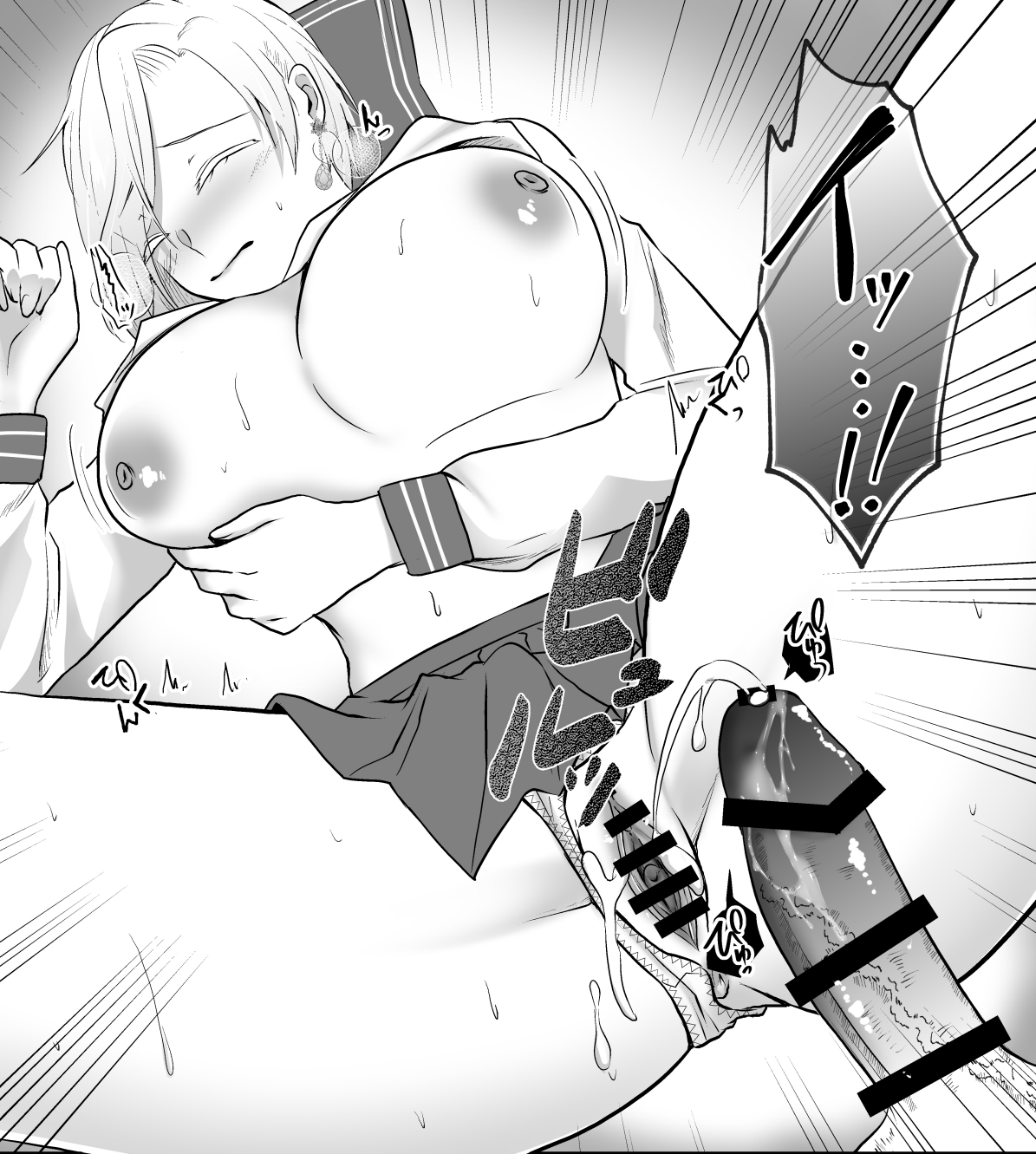
んっ
外にいっ……!

はあ

まっ

ぶわわ

ぶわわ

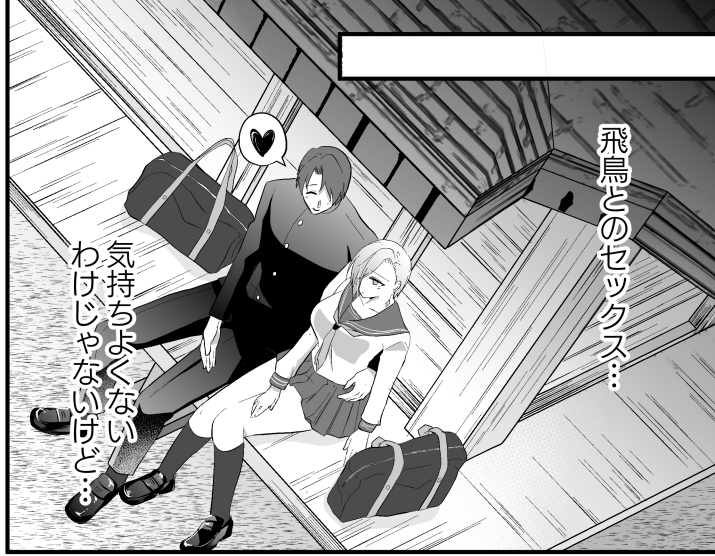


また飛鳥だけ先に...



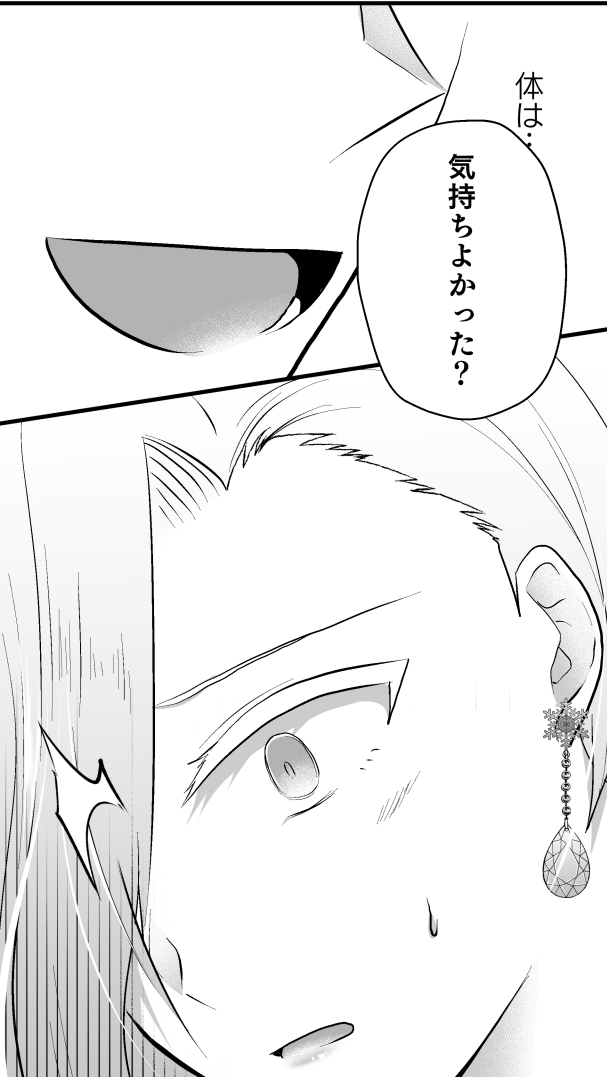
なぜかいつも
物足りない……

うん……



飛鳥とのセックス……

気持ちよくない
わけじゃないけど……

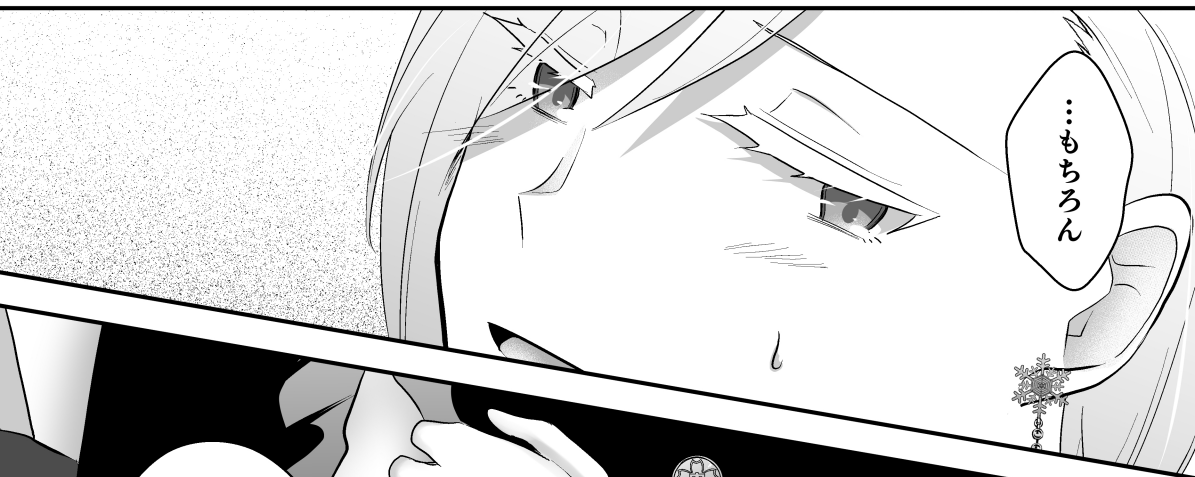


体は……

気持ちよかった？



心は満たされてるはずなのに……



…もちろん

ずっと寒い
この村でも……



飛鳥と一緒にいたら
あったかいよ

ずっと一緒に
いてね

当たり前
じゃないか

——体の相性なんて
いつかどうにかなる

俺たちは
許嫁なんだから

あーあ、
俺も早く氷雨の
お父さんみたいにな
りたいよ

だつてこんなに
想い合ってるんだから

ふっふっ
まずは学校の
成績をあげて
からだねっ

うっ……それは
そう、だけど……

私には飛鳥がいれば

——
里雪村


山神さまは
庇護する代わりに
自分が見染めた一人を
輿入れさせ

山神さまの庇護のもと
穏やかに暮らしたと
伝承の残る村

遠い昔、雪女たちが
人間から追われる中、
山神さまに助けを求めた

私の母 雪代冷香は
ゆきしろれいか
嫁いだ雪女の末裔で


父親は神職で
山神さまに
祈禱する日々



私は母と同じように
この村で生活し

飛鳥と結婚し

母様と父様のように
穏やかな日々を
送るのだろうと

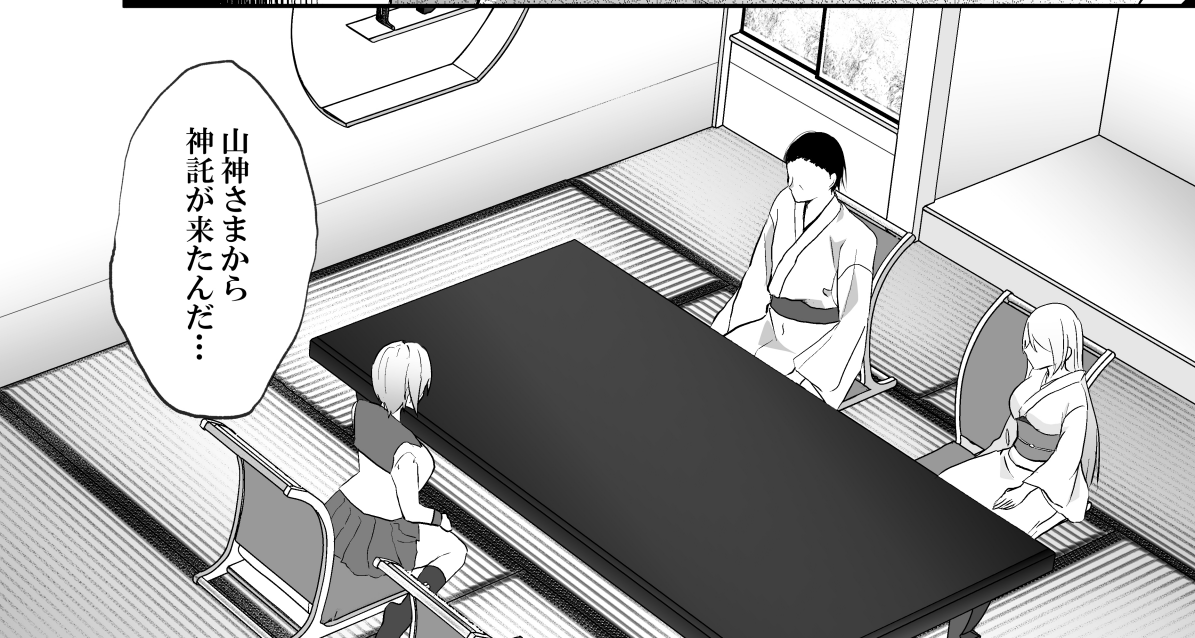
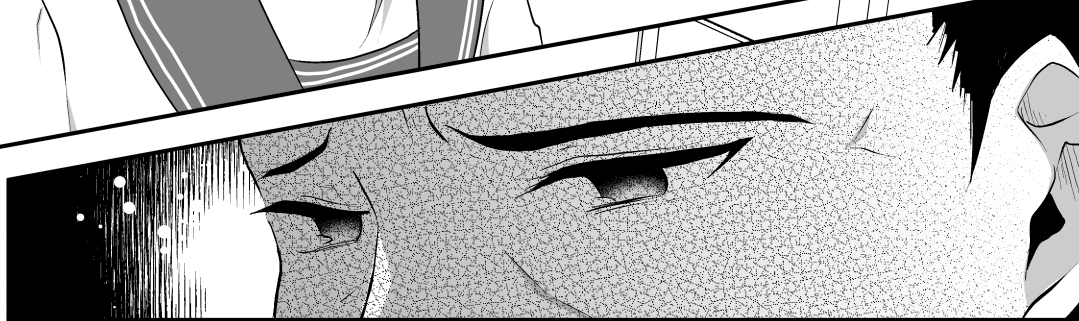


——そう、信じていた

え…？



父様……
もう一度
言ってください



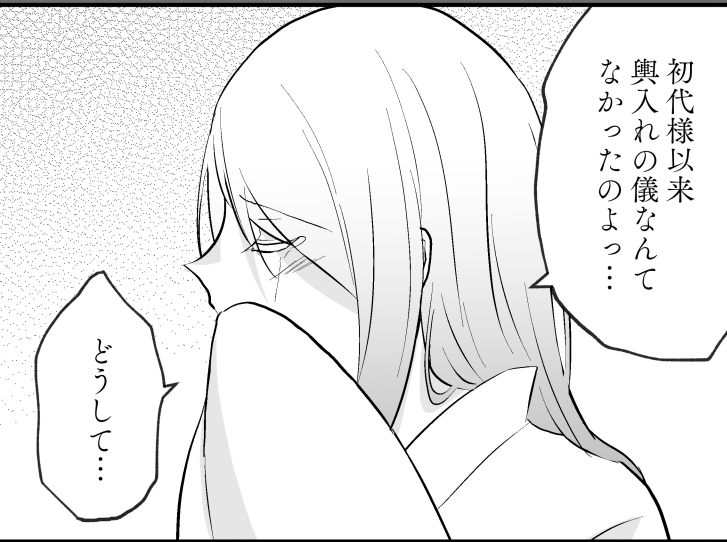
山神さまから
神託が来たんだ……



そんなんっ…

飛鳥とは
どうなるのですかっ！

ふんふんふん…



初代様以来
輿入れの儀なんて
なかったのよっ…

ふんふん…



…しかし



「15の誕生日に娘を輿入れさせよ」と

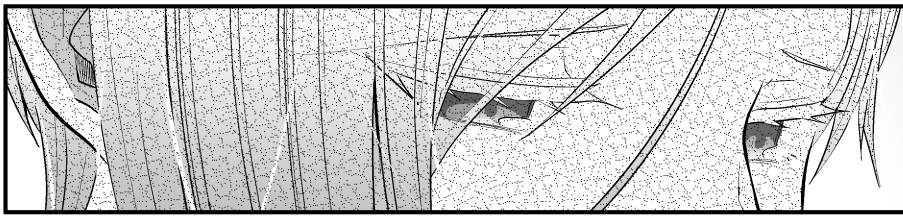


神託には
従わねばならない

氷雨

……いいね？

っ……



私は、
雪代家の
人間ですから



は……

う

